

【19】『修驗安心義鈔卷上』

写1冊(50)

〔書名よみ〕しゅげんあんじんぎしょうまきのじょう

〔著編者〕海浦義観 〔写刊年次〕明治三二年(一八八九)

〔外題〕ナシ

〔内題〕修驗安心義鈔卷上

〔その他題〕〈尾〉修驗安心義鈔卷上

〔残欠状況〕全 〔保存状況〕小破 〔装訂〕袋綴 〔紙数〕五七丁

〔本文用字〕漢字・片仮名・梵字 〔二面行数〕一〇行 〔界線〕ナシ

〔表紙〕本文共紙 〔法量〕縦一五・五糎×横一六・七糎 〔料紙〕楮

紙(杉原) 〔書入〕注記(朱・墨) 〔表紙書入〕ナシ 〔印記〕

ナシ 〔備考〕各丁表左上に算用数字で番号が振られており、「2」から始まっている。『修驗安心義鈔卷下』(26)に続く。

〔奥書〕ナシ

〔解題〕

本資料に見られる朱や墨による書き入れは、編集時のものだと考えられる。誤記の修正に加え、製本のための書き入れと考えられる数字(算用数字で、活字に置き直した場合のページ数を示したものである)や、改ページの箇所を示した鍵括弧(一)、また、書き入れを行った人物の署名もある。

(尾崎 名津子)

【20】『修驗安心義鈔卷下』

写1冊(26)

〔書名よみ〕しゅげんあんじんぎしょうまきのげ

〔著編者〕海浦義観 〔写刊年次〕明治年間

〔外題〕修驗安心義鈔卷下

〔内題〕ナシ

〔その他題〕〈尾〉修驗安心義鈔卷下

〔残欠状況〕全 〔保存状況〕小破 〔装訂〕袋綴 〔紙数〕六二丁

〔本文用字〕漢字・片仮名・梵字 〔二面行数〕一〇行 〔界線〕ナシ

〔表紙〕本文共紙 〔法量〕縦二四・五糎×横一七・一糎 〔料紙〕楮

紙(美濃紙) 〔書入〕編集上の注記(朱・墨) 〔表紙書入〕左上に

「59」と番号が振られている。 〔印記〕ナシ 〔備考〕『修驗安心義鈔卷上』(50)の続き。

〔奥書〕六二丁裏が実際に発行された『修驗安心義鈔』(49-4)の奥付の下書きとなっている。以下にそれを翻刻する。なお、ここで用いられている算用数字は文字の大きさを示すものだと考えられる。

4 明治三十一年十一月 日印刷 4 定価五十銭

全 全 日発行 5 青森県平民

4 著述人兼 4 海浦義観

発行人 6 陸奥国西津軽郡深浦村大字深浦四百十五番戸

2 版權所有 4

印刷人 4 多田三彌

4

印刷所

4 惠愛堂

6

2 発行所

5 青森県陸奥国西津軽郡深浦村大字深浦

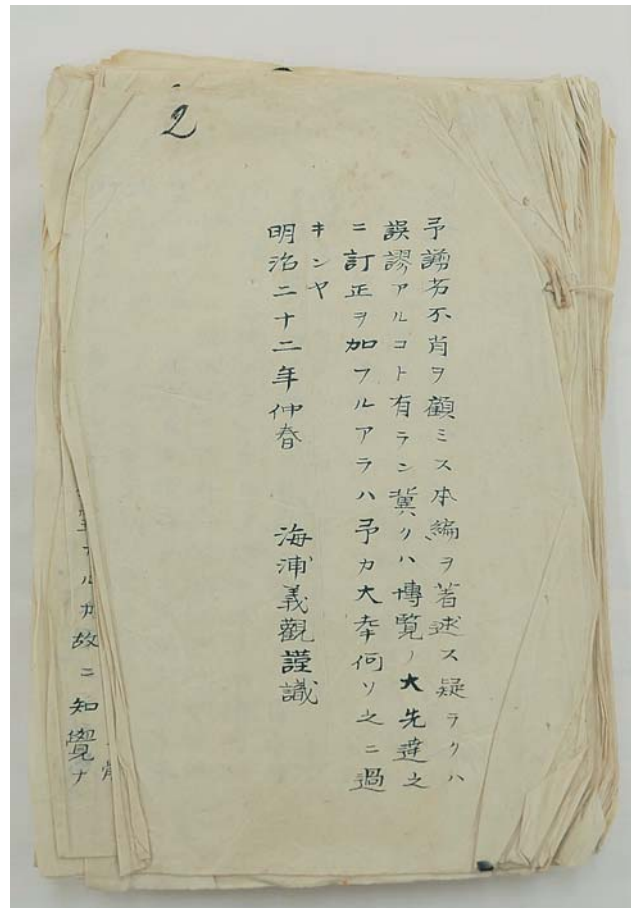
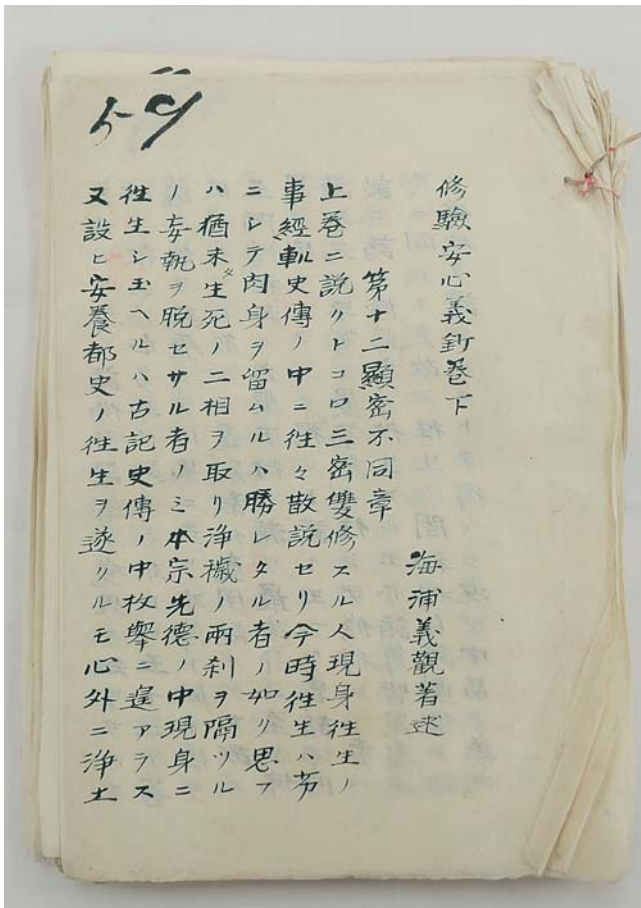
2 円覚寺

6

〔解題〕

『修験安心義鈔上』(50)とセットとして扱うべき資料である。こちらには近代出版には欠かせない奥付の下書きが付されている。奥付に書くべきことは印刷日、発行日に加え、概ね著者、発行者、発行所、印刷者、印刷所であるが、これを見ると『修験安心義鈔全』の著者はあくまで海浦義観個人であり、発行所(商業出版においてはここに出版社名が入る)は円覚寺となっており、これが義観が篤弥に宛てた書簡の内容の通り、商業出版でも、いわゆる自費出版でもなく、宗派の希望を受けてなされた事業であったことが確認できる。

(尾崎 名津子)



75

依正ノ二報鎮ニ三密ノ自樂ヲ説ク然レハ則古
根ヲ勤サスレテ能ク性相ヲ談ヒ音聲ヲ震ハス
レテ言語法界ニ遍シ六根ノ獲益ハ全ク是説法
見聞覺知ハ即是聽法ナリ既ニ如來未一法ヲ説
カサル處一切諸法不生ノ色心專是修驗ノ宗
旨ナリ三身ハ唯是ノ實義ヲ説リ諸佛ハ廣ク彼
以妙理ヲ讀レテ何ソ苟モ教家權門ノ經論ヲ以
テ法身本覺ノ依經トセンヤ峯中十種ノ形儀直
ク看取スベキ者ナリ故ニ佛經ヲ以テ所依トセ
ス却テ經ハ為ニ所依ト成ルヘキナリ 問フ經

遠如

等ノ諸經論ヲ所依トスルト雖強テ深秘究門ニハ
ニハ所依トスルニ非ス 問フ深秘究門ニハ
何レノ經論ヲ以テ所依トスルヤ 答フ本宗ハ
本ヨリ以降無作本覺體性六大法身ノ極位ニレ
テ衛國權實ノ差別ヲ泯シ大小機法ノ符對ヲ絶
ス然リト雖強テ本宗ノ依經ヲ謂ヘハ諸佛已證
ノ法曼荼羅ニレテ紙上ニ載セス 翰墨ニ顯サル
處ノ法爾常恒經是ナリ法爾常恒經ハ屏ハ樹
ノ衆生鹿言輒語皆悉ノ阿字恒説ノ妙經ニシテ

昭和三十一年三月

發行所 青森縣下民 青森縣義親

著述者 陸奥國西津輕郡津浦村 大宇津浦四百十五番戸

發行人 多田三保

印刷所 多田三保

發行所 青森縣陸奥國西津輕郡 津浦村大宇津浦 四百十五番戸

昭和三十一年三月

定価 五圓

76

テ經教ヲ高ハサル所以ナリ是ニヨリテ明者ハ
其義理ヲ尚ヒ暗者ハ其文字ヲ守ルナリ徒ニ影
像假名ヲ信シテ豈自心ノ如來ヲ賤メンヤ世人
多クハ此理ニ迷フ故ニ經論ヲ學ブヲ以テ覺者
ト思ヘリ徒ニ券契ヲ諱テ金ヲ得サルノ人ナリ經
論ハ自心ノ券契ヲ指ス何ソ文字ヲ以テ研金ト
ナサンヤ券契文字ヲ知ラステラ唯金ヲ得ルノ
人ニハ如カス設ヒ經論ヲ知ラステラ唯心源ヲ覺
知スルハ有智ノ人ナリ實相ノ中更ニ文字ナシ
若實相ノ中世間ニ文字アリト謂ハ、即是妄心

圓種